

2023年11月4日（土）
シビックプライドフォーラム

シビックプライドを育む地域公共交通

福島大学経済経営学類准教授
村上早紀子

1. シビックプライドと地域公共交通

《本日のお話》

未来を拓いていくためのシビックプライド
それが新たな地域公共交通に結実し
地域の移動(くらしの足)を育て
さらにシビックプライドを育てていく

《なぜ交通か？》

- * 地域で生活していく上で「移動」が不可欠であり、そのための公共交通が不可欠
- * しかし、特に地方都市の公共交通の現状をみると・・・

★福島県の過疎・中山間地域

全59市町村うち52市町村が過疎・中山間地域

福島県過疎・中山間地域振興計画

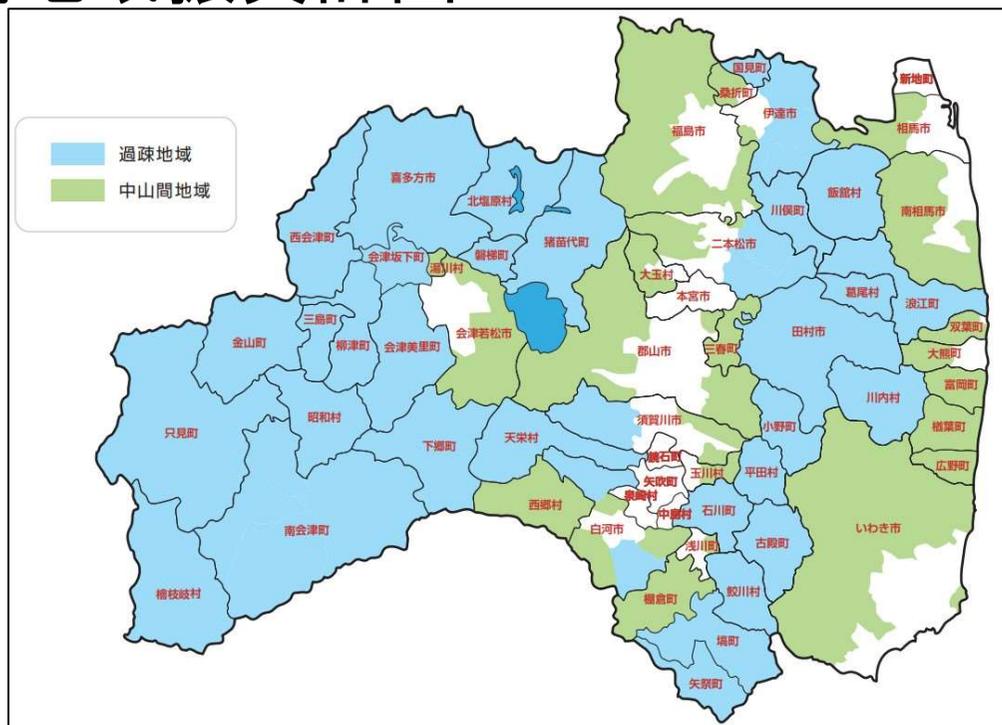
(2021年12月策定)

取組の柱：

雇用・経済

買い物環境

生活交通 ほか



画像出典：福島県「福島県過疎・中山間地域振興戦略」

★過疎・中山間地域における買い物支援の取組

須賀川市長沼地区

ショッピングパークアスク 買い物バス

(運行期間：2011年10月-2023年3月)

利用客をグループに分け
週1-2回無料で送迎

移動手段のない住民が
買い物に行くことができ
住民同士が交流する
場所となっていた



2. 東北の現場での様々な「声」と取組

(1) 弘前市常盤野地区での取組

人口166 世帯数79 高齢化率45%
(令和4年12月1日現在)



常盤野地区の公共交通を考える懇談会にて①

(2022年10月)

様々な「心配」の声

- * いつ運転できなくなるか心配
- * 運転免許を手放した後が心配
- * 早く運転をやめたい
- * 近い将来バスに頼る日がある時、バスが廃止になっていると困る



常盤野地区の公共交通を考える懇談会にて②

既存のバスに対する声

- * バス停留所までの距離が遠い
- * 利用する・しないにもかかわらず
地域上路線バスをなくしたくない

しかし外出時の交通手段は、住民の大半が
「自家用車」を選択せざるを得ない状況

安心してお出かけできる仕組みが必要

(2) 先導的共生社会ホストタウンとしての実践 —大館版mobiプロジェクト—

mobi: 半径約2kmの生活圏内の移動を
「相乗り」「定額料金」「AIによる効率的な
ルート設定」により運行するサービス

※ 国土交通省「共創モデル実証プロジェクト」



3. シビックプライドを育む 地域公共交通の東北地方における取組

「手段」は何であれ
(最近はAI, 自動運転など様々だが・・・)

それをシビックプライドの下で動かし
維持していくための「覚悟」が重要

そうした中で近年、芽生えてきた
地域の住民が主体となった「支え合い交通」

★地域の「支え合い交通」

住民の様々な「困った」という声を基に
住民らが主体となって開始された取組



北上市口内地区
有償ボランティア輸送システム



北上市黒岩地区 互助輸送

★広がり連鎖していく支え合いの取り組み
—奥州市江刺稲瀬地区 稲瀬の足を守る会—

路線バス撤退、予約型乗合タクシー終了
などにより、地域の移動手段が欠如

地域の「公共交通をなくしたくない」という想い
の下、北上市の取組を学び
「稲瀬ふれあい号」運行開始

住民にとって貴重な
くらしの足として運行中
《シビックプライド》



4. さいごに

「この地域に住み続けたい」

「この地域に住んで幸せ」

こうした想いを守っていくための
住民の覚悟、努力、シビックプライド

⇒ 地域公共交通を育て、地域を育てる

究極の目的は、住民が安心して「お出かけ」
でき、地域で暮らしていくこと 《まち育て》